

壁紙施工要領書

- 珪藻土壁紙① -

【該当品番】（2013－17WD）

LY－14479～14482（コートタイプ）

■特長

- ・左官材料のひとつである珪藻土を加工した天然素材の壁紙です。
- ・伸縮性があり、あと伸びの現象が見られることがあります。

■下地調整

- ・施工後の、下地の不陸の目立ちを避けるために、下地はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
- ・下地と同色の樹脂入りのパテを使用してください。強度の弱いパテはハガレの原因になります。
- ・湿式工法による下地（コンクリート、モルタルなど）や、パテ・シーラーを施した場所は十分に乾燥（水分 11%以下）していることを確認してください。未乾燥状態での施工は壁紙の変色、かびの発生を招くことがあります。
- ・接着性の悪い下地（ケイカル板、粉吹き下地、ペンキ下地、化粧板など）には必ずシーラーを塗布してください。下地を補強し壁紙のハガレ、目開きを防ぎます。

■接着剤

- ・接着剤は、原液タイプをお薦めします。希釈タイプ使用の場合は、でん粉系の接着剤にエチレン酢ビ系ボンドを 10～20%程度混合し、糊：水＝10：6 程度を目安に多めに塗布してください。（水分の多い薄い糊の場合、壁紙が糊自体を吸い込んでしまい、接着力が低下します。水分を余分に吸い込むことで伸び切るまでの時間が長くなったり、ふくれの原因にもなります。）

■養生・オープンタイム

- ・接着剤塗布後は、うませ時間を 5～10 分程度、施工可能期間 20 分以内を目安に作業を進めてください。
- ・接着剤塗布後はタタミジワを防ぐためにも、大きくたたみ上積みは避けてください。

■張り付け、ジョイント

- ・ジョイントは突き付けにて行なってください。ただし、天然素材で目立ちやすいため目地施工等で対応した方がきれいに仕上がります。(場合によってはリバース施工も一案です。) また、重ね裁ち(ダブルカット)を行う場合は、下地まで切り込まないように下敷き等を使用してください。目開きの原因となります。(壁紙と下地の間に下敷きを入れる、和紙テープを張り込む、といった注意が重ね裁ちの場合は必要です。)
- ・ジョイントが目立ちやすいので、カットする際、カッターは薄刃の物を使用し、こまめに替えて常に鋭利な状態で使用してください。
- ・キズ付き防止のため、なで付けは柔らかい刷毛を使い丁寧におこなってください。ローラーはウレタン製の物を使用してください。
- ・復元力がないので、表面形状のつぶれやツヤ、折れ目や折れジワについては、十分に注意してください。
- ・壁紙表面に水や接着剤が付着すると変色の原因にもなります。付着した場合は直ちに拭き取るようにしてください。
- ・吸水性の低い下地(シーラー塗布面、化粧板、等)では、あと伸びによるフクレが発生することがあります。なで残しのないように繰り返し何度もエア抜きをおこなってください。

■施工後

- ・施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。特に、冷暖房などによる急激な室温の変化は避けてください。目開き、はがれの原因になります。

■汚れについて

- ・表面に接着剤等が付着した場合は、きれいな水を使用し、固く絞った布等で拭き取ってください。変色、シミ等の原因になります。
- ・手垢等については拭き取ることが困難です。付かないようご配慮ください。